



# Mitsui V-Net

## Mitsui Volunteer Network Center

### 三井ボランティアネットワーク事業団

ニュースレター Vol.47

2012年1月1日発行

#### 新春のご挨拶

飯尾 紀直  
(三井V-Net 理事長/三井物産顧問)

あけましておめでとう  
ございます。

ご挨拶が遅れましたが、  
山本恵三前理事長から  
昨年6月に理事長職を引  
き継ぎ事業団運営のお  
手伝いをさせて頂いてお  
ります。



本事業団は、1996年  
に発足し昨年10月で16年目を迎えました。「シニア  
の生き甲斐づくり支援」・「三井グループの社会貢  
献活動」を目指し、三井グループ運営会員各社（現  
行21社）のOBを中心としたボランティア登録会員  
（現在約1,200名）によって、①国際交流 ②環境  
保全 ③医療・福祉 ④文化・教育の4分野におい  
て、さまざまボランティア活動を行っております。

皆様ご存知の通り、前理事長の時に、運営会員  
会社の負担軽減のため年会費の減額並びに運営の  
合理化及び組織の改編を実施し、新体制下での活  
動の途についております。

私の就任後、2011年度の取り組みにつきましては  
まず、現在の事業運営の最重要課題となっております  
事業団の活性化と収入の増加のために、私どもは、  
二木会・月曜会メンバー会社の未加入会社及び休  
会会社への勧誘対策に取り組んで居り、既に会社

訪問等の活動を開始致しました。その結果、数社  
から前向きな返事を頂いております。

また、活動の活性化のためには、若年層の方々  
のあらたな参加も喫緊の課題であり、事務局を中  
心にして、インターネットからの登録の開始等、具  
体的施策を実行中です。また、活動プログラムの  
質の向上を目指すことも重要と考え、これも継続的  
な課題として皆様と取り組んでいきたいと考えてお  
ります。

過日、私自身も、活動現場や各部会のお世話を  
している幹事の方々の月例会議や、大磯のエリザベ  
スサンダースホームでのチャリティーコンサートに参  
加する機会を持ちましたが、現場の皆様が熱心に  
且つ自信を持って社会貢献に取り組んでいる姿にと  
ても感銘を受けました。

わが国を襲った昨年の大震災は人々の心にボラ  
ンティア精神を喚起させましたが、それは正に1995  
年の阪神・淡路大震災をきっかけに設立された三  
井V-Netの志と同じであると確信しております。その  
脈々と続いている志を一つでも多くの活動に活かし  
社会を支えていく大きな原動力に成るべく本年も皆  
様と力をあわせ、充実したボランティア活動を展開  
して参りたいと存じます。

最後になりますが、本年の皆様のご多幸と運営  
会社各社のご隆昌を祈念するとともに、本事業団  
の発展のための引き続きのご支援、ご協力のほど  
をお願い申し上げます。

#### 皆様もボランティア活動に参加しませんか

インターネットで会員の登録ができます。  
以下ホームページをご覧ください。

ホームページアドレス <http://www.mv-net.com/>

ボランティア活動会員登録に関しましては入会金および年会費等は不要です



人と人のまんなかに。

## 本部（東京）

### 留学生との交流

中山 健（三井物産 OB）



左から筆者、中山夫人、鄧君夫人の辛さん、鄧君  
東大国際センターより平成21年12月に海外留学生の紹介を受けて相談、交流を始めました。

はじめは、東大博士課程を研修中のパキスタン人スレーマン・マズハー君（26才）と早速月当たり一回の話し合いを行ないました。母国の歴史・地勢や政治、現状の問題点など深い知識を聞いてイスラム国のことをあまりにも知らないことに気付いた次第です。それから紹介された東大イスラム研究会や米国人教授の東大イスラム授業にも参加し少しずつながらこちらも勉強しました。別途エジプトへ旅行した際はこのイスラム教の知識が大変役に立ちました。

一方研修生活上の困ったことがあればアドバイスをを行い、併行して日本の良い習慣や伝統行事について説明しました。研究室でのやり取りは多国籍留学生が多く担当の教授とは英語、論文の発表は英語で行なわれました。平成21年9月、東大・海洋環境工学博士を取得して、現在は母国パキスタンGIKI大学助教授として活躍中、また専門の「水中音響コンピューター解析」を駆使して絶滅を危惧されるインダス河イルカの保護プロジェクト（WWF）に参画しています。昨年3月11日の東日本大震災時にはいち早く安否を尋ねてくれ何か出来ることはないかと力づけてくれました。

つぎに、平成22年5月博士課程研修中の中国人趙宇君（28才）の紹介を受けました。

研修課題は「2004年新潟地震による地殻変形と移動」を東大・生産技術研究所で研究発表することです。論文の提出は英語。何度かの修正に大変苦労を重ねた末評価を得て、平成22年9月東大土木工学（社会基盤）博士を取得しました。同年9月中国の両親が初来日し、この機会に昼食会で両親を交えて歓談しました。現在は中国浙江大学（杭州）の災害防止研究所博士研究員で活躍中です。先日大震災の時は前述同様安否を尋ねてくれており、また中国茶で珍しい武夷岩茶（大紅袍）を送ってきてくれました。

今は、平成23年1月中国人鄧振忠君（27才）の紹介を受け交流しています。東大・医科学研究所ヒトゲノム遺伝子解析センターで「癌細胞遺伝子スクリーニング」を研修中です。一時帰国中に結婚した辛坤艶さん（27才）

現役時代に得た海外経験の知識と日本語教師の知識が役立つ海外留学生相談ボランティアを望んでいたところ、

が平成23年9月来日し当方家族と新婦を交えて昼食会で歓談し親善に努めました。どの留学生もとても真面目でよく学び夫々の専門分野の研究に打ち込んでおり大変興味深く話を聞かせてもらっています。

### 富士山5合目へ

鈴木 徹夫（東芝 OB）



平成23年6月5日、駒澤大学留学生11名と三井ボランティア6名を乗せた小型バスが富士山5合目に向けて出発した。駒澤大学留学生との交流は今年で12年を数えるが、バス旅行は初めての試みであった。駒大へ新しい風をという前事務局長からのチャレンジに応じてのイベントであった。原発事故の影響で欧米系の新留学生はゼロであったため、参加者は中国系女子が大部分を占めた。

富士スバルラインを登って11時過ぎに富士山5合目に到着。ここでも原発事故の影響で外国人観光客が激減しており、日曜日というのに観光バスが少なく一番近い場所に駐車出来た。気温は10℃で霧が発生し、無風だったので下界の眺望はゼロ、山頂は霧の晴れ間に微かに望まれる程度。それでも学生たちは喜んだ。1時間程度のハイキングをしようと御中道コースを進んだが、500mで通行止めとなっていた。なんと厚さ1m以上もある残雪が道を塞いでいたのだ。思いがけず富士山の雪を見ることが出来、留学生は大喜びだった。戻って、20万年前の子御岳火山頂上にあたる子御岳神社にお参りした。五合園レストハウス2階の休憩所で持参したおにぎりや弁当で昼食。5合目を後にして河口湖畔にあるクラフトパークへ。ここはトンボ玉、ステンドグラス、サンドブラストなどのガラス工芸、絵付陶芸や銀工芸などの実演を見たり体験したり出来るので、留学生が興味を持つだろうと期待したが空振りに終わった。

最後に河口湖越しに富士山を見る絶好地に立ち寄り、残念ながら見えない富士山を背景に全員で記念撮影をして帰路に着いた。後で分った事だが、休日高速千円制度が6月19日で廃止されるための駆け込み遠出組で帰路は大渋滞。東名高速も40kmの渋滞でノロノロ運転が続いた。あまりに進まないで、気を紛らわすために会員の一人が音頭を取ってカラオケを始めたところ、意外にも留学生の気分がほぐれたようで、中国や香港の学生



富士山を背景にして（曇りで見えず）

が次々に日本の演歌を歌った。これには感心した。4時間40分かかって20時40分に帰着、長い一日だった。

帰りに書いてもらっ



人と人のまんなかに。

たアンケートの結果は、楽しかった◎が9人、○が2人で△や×はゼロ。またバス旅行を計画したら、全員が参加したいと回答。富士山が良く見えなかったにも拘わらず、この好評価を得られたことは幸いであり、企画実行した甲斐があった。三井V-Net事務局の支援に感謝します。

## 横浜国大の留学生と東日本大震災

布野 剛甫（三井住友銀行 OB）



今度の大地震により想定外の災厄に見舞われたのはわれわればかりでなく、外国人特に留学生にとっても、とんでもない事件であったことは言うまでもなからう。

地震があるとは知って来ただろうが、あれだけの揺れを体感した上、原発事故まで加わり、日本語も覚束ないのに、その後の対応でどんなに苦労したか想像に余りある。それ故、近い将来首都圏で起きるであろう巨大地震に対し、今回の経験を踏まえ留学生についての適切な対策が関係機関で立案されることを強く期待しているところである。

大震災当時のことを思い出してみよう。

私自身は横浜の自宅にいて異様に強い揺れに驚いたが、すぐ停電になってTV・ラジオ・電話が使えず、家族や交流中の二人の留学生とも連絡は取れぬまま不安な一夜を過ごし、翌日ようやく家族と話せてまた留学生二人とも無事なのが確認できた。

留学生達は余震が続くので自室でなく女子は寮の和室に集まって夜を過ごしているという。そこでいろいろ注意事項やアドバイスをしたが、留学生達はTVやWEBの英文ニュースで情報を得ているようだった。やがて放射能の飛散が伝えられると寮の中を色々な情報が飛び交い、大使館が避難を呼びかけたとかで不安を増幅させているのがはっきり分かった。

大学でも在学生の安否確認と海外からの照会対応で多忙となり留学生支援にも限界があったようだ。私からは留学生に、横浜は相当離れており大丈夫だし、関西でもホテルの予約は取れないだろうから無理をしないよう言うのが精一杯だった。

そうこうするうちに、TVニュースを見た母国の家族から、とにかく早く帰国せよと強硬な連絡が入るようになり、完全に浮き足立ってきてしまった。

ついに一人は韓国経由の帰国を図り、もう一人は家族の手配で航空券を手に入れたが発行当日、空港を羽田と成田を間違えそうになるほどの慌て方で帰っていった。

一方、以前に交流していた米国や韓国の学生から安否確認の問い合わせがあり嬉しかった。帰国した留学生には新学期の開始情報を連絡していた。新学期になって学生達はほぼ戻ってきたが、新規の交換留学生は大学

の安全説明にも拘らずほとんど来日せず、部会で予定していた歓迎行事や新しい一対一交流も出来なくなってしまった。その後、多くの留学生から被災地でのボランティア、避難先慰問などの経験談を聞いている。その一つに、再入国許可のために入管に行った時の話で、とにかく長蛇の列であきらめようとしたが必ず処理すると職員が約束したので8時間並んで、とうとう夜7時に許可を貰ったという。

そしてこの日本の公務員の強い責任感に感激してまた日本に戻ろうと思ったそうだ。このように留学生達は災害時の日本社会の対応などを通して貴重な体験ができ、日本理解が深まったと思われるが、留学後のかれらの仕事などにぜひ生かして貰いたいものである。

当然日本人も、首都圏を巻き込む次の災厄の備えに生かすべきだと考えている。

## 留学生との交流は互惠互利

古沢 壮介（三井住友銀行 OB）



三井V-Netのご紹介で埼玉大学の外国人留学生と一昨年末より交流を開始しました。私はドイツ人留学生（交換留学で日本語を学習）と、中国系マレーシア人留学生（大学院で国際関係論を専攻）を紹介されました。

前者は2回交流しましたが、震災後直ちに帰国し日本には戻りませんでした。一方、後者は両親から再三帰国の要請を受けましたが、帰国せず日本に居続けました。

彼との交流は、私の方でテーマを毎回用意し日本語会話をスタートさせますが、あちこちに話は飛びます。テーマは①日本人は閉鎖的か、②あなたは母国でどんな言語を使用しているのか、など。

①彼からは日本人は閉鎖的に見える、②使用言語は、外ではマレーシア語、英語、両親とは福建語、中国系の友人とは北京語（標準語）だそうです。広東語も話せるとのこと。ちなみに母国の人口の約3割が中国系です。

また、昨年7月より中国人女子留学生（交換留学で日本語を学習）と交流しています。日本人の友達を作りたいようですが、うまく行かないとのこと。その点でも交流ボランティアは役に立っています。彼女の話す日本語は完璧に近く、いわゆる訛りはありません。ただし、Eメールの文章には誤りがあるので、時々指摘してあげます。

留学生との交流プログラムはお互いの国の文化、価値観、考え方を理解する上で非常に有意義です。

お互いの相違点を認識し相手の長所を学び、取り入れることが、真の相互理解に至る道であると確信しています。キーワードは互惠互利（中国の四字熟語、WIN-WINの関係の意）です。

私はこれからも交流を続ける所存です。



人と人のまんなかに。

## エリザベスサンダースホームの清掃活動

風当 久美子（三井住友銀行 OG）



私がボランティア活動に参加するきっかけとなったのは、銀行の元同僚の山口さんから、「フーちゃん、ボランティアに参加しない？」の言葉でした。

周りでボランティア活動をされている方を偉いなと思うだけで、いざ自分がと思うと腰が重い私には考えられない事でした。

また、「エリザベスサンダースホーム」と聞いて子供の頃から知っているところでもあり、清掃なら私にもできると、お手伝いしようと決めました。

5月が最初の活動でした。はじめは非常に緊張していましたが、皆さんが一生懸命働いている中にいて自然と緊張もほぐれ、私もいつの間にか溶け込んで懸命に働いていました。清掃の後は皆さんとの昼食会です。これがまた、楽しみの一つと聞いていましたので私も楽しみにしていました。まずは、ビールで乾杯！皆さん一斉に「うまい！」これで疲れを完全に忘れてその日の反省会を和気あいあいと行います。

ご年配の方々が、皆さん頑張ってボランティア活動を盛り上げていらっしゃる姿を拝見して、私も見習わねばと思っております。そして、もっと多くの皆さんとの和を広げられたら良いなと思いました。

## 日赤医療センターでのボランティア

宮城 操（登録活動会員）



今から10数年前、ちょうど還暦をむかえた時だったでしょうか。そろそろ時間の余裕もでき何か社会に貢献できることを考えていたころ、三井V-Netより手紙が届き“ボランティア募集”でした。早速説明会にでかけました。日赤に向かうバスに同窓生が同じ目的で乗っていらっしやって驚きました。日赤は私の従姉が小児科医として勤務していた関係で次女は日赤で生まれました。少しでも御恩がえしができるかなとも思いました。

あれから10数年、私自身も健康に恵まれ、家族も元気ですので何とか1回のペースではございますがボランティア活動を続けています。

外来での仕事は主に再来機と自動支払機の説明です。以前の機械には用紙交換（慣れるまでちょっと大変）という作業がありました。それがなくなり、呼び出し機が追加されました。そのケースを手渡してあげることも仕事のひとつです。よく聞かれることは、「何科はどこですか？」「診察券を忘れましたが」「トイレ、ATM、ポストどこですか？」

「駐車証はどこでもらえますか？」「喫煙は？」など様々です。時には病状の説明をはじめの方もいて、あわてて婦長さんのところにお連れします。11時30分になると再来機での受付が止まってしまいます。その場合の対応が科によって様々で困ります。内科は直接行く、整形外科は1番窓口を通す、メンタルヘルスは予約のみで機械の受け付けはありません。

患者さんには、重症の方、軽症の方いろいろですが、あまり笑顔で来る方は少ないです。せめて受付にいるものとして明るく笑顔でお勧めさせて頂きたいとおもっています。最近産科の患者さんが多いことはとても嬉しいことです。活動メンバー皆様のご健康をお祈りしています。

## 千葉大病院院内コンサートを終えて

森本 舞（登録活動会員）  
（桐朋学園大学ヴァイオリン科卒）



日頃あまりコンサートに足を運べない皆様のために、生の音楽に触れて頂きたいと企画し実現したコンサートでした。

私がボランティア演奏をしたいと思ったきっかけは、やはり昨年3月11日に起きた東日本大震災でした。

恩師である江藤俊哉氏の御遺志を受け継ぎ、小平市文化振興財団が主催する活動（これは江藤俊哉ヴァイオリンコンクールの受賞者らが行うコンサート）で培ってきたことをもとに、自作のプログラムとアンケートにもチャレンジしました。

60部お配りした内50部弱ものお答えを頂きましたので、その一部をご紹介します。「外来ではなく入院病棟でやって欲しい。入院患者こそ、こういうコンサートを必要としている」「もっと院内で宣伝してほしい。偶然その時間に居合わせたので聴けたが事前に知っていればそれに合わせて次回の予約を取りたいのでぜひ教えて下さい」「癌センターやホスピスでこそやって欲しい」「子供の病気のことを一時忘れることが出来た」「もっと沢山コンサートをして下さい」「途中何度もの館内放送でとても残念」「次回はツィゴイネルワイゼンが聴きたい」「チャルダッシュ、子供も手足を動かし喜んでた」「癒された。やはり生の音楽は格別です」など沢山の反響を頂き大変嬉しく思っております。

コンサートに関わって下さった皆様、そしてお聴き下さった皆様、本当にありがとうございました。またどこかで皆様とお会い出来ますことを、心より願っております。



## 千葉大病院院内コンサートを終えて

坂本 真弓（登録活動会員）  
（桐朋学園大学ピアノ専攻卒）



2011年9月26日(月)、千葉大学医学部附属病院にて、学生時代からの友人であるヴァイオリニスト(森本舞さん)と一緒に、ボランティア演奏をして参りました。

私は、今回のボランティア活動が初めての経験でした。日頃なかなかリサイタルに行く機会をもてない方など、より多くの方々にクラシック音楽を身近で親しんで頂き、明るく幸せな気持ちになって頂けたらと思います、昨年7月に三井V-Netに登録致しました。

早速、このような演奏をする機会を与えて下さり感謝しております。今回の演奏曲目は、皆さんがどこかで聴いたことのある有名な曲を中心に選曲致しました。ヴァイオリンとピアノのデュオを中心に、愛の挨拶、ロンドンデリーの歌、ヴィヴァルディの四季より「秋」、アヴェ・マリア、チャルダッシュ、他にはピアノソロで、ショパンの子犬のワルツ、モーツァルトのトルコ行進曲などを演奏致しました。

広々とした天井の高い外来ロビーにはグランドピアノも置いてあり、環境も良い中での演奏でしたが、外来の患者さんや会計アナウンスで混雑もしており、演奏を始めるまでは少々不安もありました。

しかし、演奏を始めると皆さん注目をして下さり、演奏後は「毎回ロビーコンサートを楽しみに聴きに來ています」、「会計待ちのひと時、あたたかい気持ちになりました」などの声を多数頂きました。微力ながら、音楽のもつ癒し、素晴らしさを少しでもお伝え出来て、とても嬉しく感じております。今後も活動を続けて参りたいと思います。

三井V-Netの皆様、大変お世話になりました。ありがとうございました。



関西支部（大阪）

## 三井V-Netの国際交流に携わって

江崎 邦夫（東レOB）

60歳に近づいた頃「三井V-Netニュースレター」を拝見して、仕事で毎月のように海外に出張した経験もあり、退職後のボランティア活動は「国際交流」に携わりたいと決めておりました。

しかし、退職後自分の趣味や友人との交流再開等で忙しく、さらに心筋梗塞での入院もあり、三井V-Netへ



筆者 武麗慧さん 江崎夫人

の登録が遅れましたが、2010年11月に中国からの留学生で神戸大学経営学部研究生の武麗慧さん（女性）を紹介して頂きました。武さんは、山東省のご出身で大連の大学/大学院修士課程で経営学を学び、そして日本語を専門学校で習得後、国費留学生として2010年10月に来日、神戸大学の研究生として、2011年の大学院博士課程への入試を控えている方でした。

武さんからは、正確な日本語を身につけ、日本の生活習慣や日本文化を学びたいとの希望がありました。そこで日本語の精度アップのため、大学でお会いしてMAILで受け取った日本語の添削や会話を通じて日本語の正確性を高め、また気分転換を兼ねてJALやVISAカードの情報誌や日経新聞を見ながら日本の食事や観光名所等について会話を重ねていきました。

もっとも武さんは、非常に優秀かつ大変な努力家であり日本語のレベルも既に高く、12月の日本語検定試験1級に合格、そして2011年2月の経営学部大学院博士課程入試にも合格されました。また日本文化については、先ず京都、奈良への小旅行を勧め、日本の生活習慣については、わが家にて家内と一緒に日本料理を作ってもらうなど身近なところからスタートさせました。そして1年経ち、武さんも大学院生としての研究も軌道に乗り、交友範囲も広がりつつある現在は、2か月に1回程度大学か小生宅で会って交流を深めております。

## 京大病院・図書ボランティア“ほっこり”に参加して

澤田 善夫（東レOB）



三井V-Netのご紹介で、昨年6月から表題の京大病院・図書ボランティアに加わり活動を始めました。

私自身7年前に胃がんのために胃全摘出手術を受け、その後現在に至るまで元気に活動出来ていますのも医療施設とその関係者のおかげであると常々感じておりました。そしてその入院時の図書コーナーのありがたさがたいへん印象に残っておりまして、患者の皆様方の元氣への一助になればと考えてボランティア活動に参加させていただきました。

京大病院のボランティア向けの導入オリエンテーションと健康診断を受け活動を始めて感じておりますのは、患者さんの笑顔に接し楽しくそこはかたない充実感を得られることです。病院に入院されている方たち、外来



の患者さんたち、そしてそのご家族の方たちが図書コーナーに寄って下さり、めいめいがそれぞれの休息のひとときを過ごされています。そして、本を借り出していかれる時に笑顔のありがたい一言をいただくたびに本当にうれしく感じます。

本の貸出、返却受付、書架の整理等結構忙しくはありますが楽しくまた時節ごとのイベントの開催の裏方も心地よい活動になっております。

また図書ボランティア“ほっこり”事務局の西崎代表、丹生・赤水副代表の温かいお人柄に接する機会に恵まれたことに感謝し、“ほっこり”の諸先輩の皆様方の助力と人の和に感動しております。加えて、京大病院・事務局医療サービス課の内野宮さん、岡本さんの明るく前向きなバックアップに助けられ楽しんでボランティアに励んでおります。



現在ボランティアの登録人数も24名となりましたがまだまだご参画頂ける方を募集しておりますので、ぜひとも“ほっこり”の仲間が増えていきますようにご助力のほどよろしくお願い申し上げます。

## 司馬遼太郎記念館ボランティアの会に参加して

山上 静雄 (三越 OB)



三井V-Netの紹介により司馬遼太郎記念館へボランティアに通い始めて一年になります。記念館は東大阪小坂という住宅街にあり司馬さんの住居、書斎、雑木林風の庭園、そして安藤忠雄さん設計によるコンクリート造りの記念館等合わせて2300平方メートルの閑静なたたずまいをした一画です。

館内は蔵書の一部約2万冊を収納した書架や先生の作品の初版本が展示されており、それらの背表紙を見るだけで思いをめぐらし楽しみです。その他いろいろの映像による紹介や企画展(直近では「坂の上の雲」「新選組血風録」)が展示され一層魅力を増します。

明るい開放的な喫茶や「書物」「グッズ」等の販売コーナーもまた自然と足が止まります。従事される方々やボランティアの皆様にもお互いになごやかに啓発されながら会話もはずみます。また年中行事としては先生の作品ゆかりの旅行(日帰りまたは一泊旅行)年末の交流会、街をあげて彩る菜の花忌(2月12日)等四季それぞれ趣きを感じます。

来館者は近隣にとどまらず遠方や外国からも多勢来られ、それらの方々が帰り際に声を掛けられて退館される

のも気持ちの良いものです。

毎週一回のボランティアの活動ですがこの輪が一層広がるのを願っています。

## 神戸市立博物館 一学習支援交流員の活動一

高田 温美 (三越 OG)

応募締切り当日、博物館学芸員の先生に応募用紙を手渡して滑り込み採用になりましたのが、神戸市立博物館平成22年度学習支援交流員(ボランティア)でした。研修を約1か月受け10名が晴れて交流員として登録



し、4月1日から第三期生として活動することになりました。

研修で館の概要や博物館の使命、おもてなしの対応、博物館と学校教育等について学びましたが、二期生の方の学習支援交流員としての活動報告を聞いた時は正直驚きました。

博物館における活動を通し生涯学習や市民参画の諸講座・ワークショップ等での教育普及などの活動や、そのための下準備、そしてその成果など、生き生きと楽しそうに活動されている報告を聞き、その内容の深さに驚きました。

二期生(一期生は2年間で卒業)の方達とテーマ毎にチームを組み、プレストミーティングに学芸員の先生を巻き込みながら夏休みや冬休みのワークショップに取り組みました。その間、全員で各テーマの学習もこなし、何かと忙しいながらも充実した1年となりました。

神戸市立博物館は旧居留地に位置しているので、一・二期生成成の居留地マップを基に居留地探検、南蛮扇子や南蛮屏風の作成、館所有の伊能忠敬の古地図を学びながら測量や実測等。

これだけの学習の成果を2年間で終えるのは残念と思っておりましたら、5年間に変わりました。昨年4月から新しいメンバーも10名登録され、三井V-Netのお仲間も増え、頼もしい限りです。

あと3年ボランティアとして、どの位活動出来るか判りませんが、人と人の交流を博物館活動を通して、学習支援交流員として、名のおり私自身学習しながら頑張ろうと思っております。

## 「マイナビABCチャンピオンシップ ゴルフトーナメント」で遼君と・・・

東 光子 (三井物産 OG)

間もなく晩秋を迎えようとする10月27日～30日、日の気温25～26度という暑さの中ABCゴルフ倶楽部兵



人と人のまんなかに。



庫県)にて開催されたゴルフトーナメントへ、ボランティアとして2回目の参加をして来ました。主な活動内容は下記の通りです。

**27日(木) 担当業務: ホールマージャー**  
《コースでプレーがスムーズに進行出来るようにギャラリー誘導》

私の担当は、2008年石川遼君が最終ホールで池ボチャするも、素晴らしいウォーターショットでプロ初優勝を果たした記念すべき18番ホール。初日から何かが起こりそうな予感が!

**28日(金) 担当業務: 練習所 遅番**

《打撃練習所で選手にボールやティーを渡すことと打席の整理》

この日は予選を通過した選手が、翌日のために打撃練習に現れます。私のお目当てである石川遼君はギャラリーの混乱を避けるため、通常ここには現れないとの前情報でしたが3時30分を過ぎた頃、警備員、関係者の動きが激しくなり、何かの予感!…なんと遼君が現れたのです。それも私達ボランティアの3m程前で!お父上のコーチの下、当日の反省と明日への調整をされ、私には夢見心地の30分間でした。

**29日(土) 担当業務: スコア提出所補助員**

《ホールアウト後提出されたスコアカードの確認とスコア計算》

ボランティア3名で、ホールアウトされた選手のスコアカードのサイン確認と、スコア計算を行いました。プレー後の選手の様子は当日の成績に関係なく、戦い抜いたスポーツ選手の気を抜く場であり、楽しい会話もあり業務は緊張しましたが、雰囲気はとても和やかなものでした。ここでもまた奇跡が起こりました。スコア計算の際、他のボランティアはパースコアに+で計算されるのに対して、私は得意の暗算で集計を行っていました。それに遼君が気づき「そろばんですか!」との質問。舞い上がりながらスコアの確認を行いました。

夢のような3日間で、今まで各種のボランティア経験がありますが、今回ほど幸せな活動は初めてでした。この活動は早朝集合が多く自宅4時スタートもありますが、今後も機会を見て参加したいと思っています。ゴルフに興味のある方、是非参加してみられたら如何でしょうか?



## 須磨ビーチクリーンアップ -初めてのボランティア-

松村 圭子 (商船三井現役)



東日本大震災後、何も行動できない自分に毎日悶々としていた折、商船三井の先輩、前田昌巳さんより三井V-Netのご紹介を受け、私でも何か出来ることがあればと、即入会させて頂き、昨年9月25日(日)、須磨ビーチクリーンアップに初めて参加しました。

当日は快晴、9月も後半なのに暑くて日焼けしそうなお天気でしたが、JR須磨駅を降りたら、既に各企業や団体等で海岸は人で一杯でした。

こんなに沢山の人が居たらごみあるのかしら?と心配しましたが、いざごみを拾い出すと、まだ針の付いた釣り糸、太い杭、釘、ネジ、ペットボトルキャップ、プラスチック破片、コンクリート破片等があり、私は釘やネジを沢山拾いました。裸足で歩く砂浜に何故釘やネジがあるのか、不思議で危ないなと思いました。

一齐に10時スタートで海岸へ繰り出しましたが、家族連れやペット連れの方も多く参加されており小さな子供達も頑張っ参加し、和気あいあいとしたとても良い雰囲気でした。回収、仕訳で実質2時間、昼には終了で、大勢で拾うととても早くクリーンアップ作業が出来ました。

三井V-Netでは、3~4人のグループ編成で、私は三井金属鉱業現役の女性崎山さん、小林さんとご一緒させて頂きました。同社では、三井V-Netのニュースレターが社内回覧されており、若いお二人は早くから入会されていて、三井グループ会社のOB・OGの方だけではなく、現役の方との良い出会いが出来ました。

終了後は、お二人と須磨駅前のポップなホットドッグ屋さんで、来年の参加の約束を交わし別れました。

11月から、生前、父が大好きだった司馬遼太郎さんの記念館で、三井V-Netのご紹介でボランティア活動に参加することになりました。これからもよろしくお願い致します。

### 中国支部 (広島)

## ひろしまフラワーフェスティバル

竹野下 邦子 (中国支部)



第35回ひろしまフラワーフェスティバルが、5月3~5日に平和大通り一帯で開催されました。昨年は東日本大震災があり開催の是非が話し合われました。この祭典は原爆投下後の廃虚から



復興した広島を象徴するイベントであり、広島から未来への希望を発信し被災者の力になれることがあるということで開催の運びと

なったそうです。

支援のスローガンは復興への願いを込めて「届けよ希望、元気」としました。被災地支援の呼びかけとして案内所に募金箱を設置し、福島県の農産品販売やチャリティーコンサートなどが企画されました。これまでも三井V-Netから毎年参加してきました。去年はパレード、車いす介助、ふれあいの広場に8名がお手伝いしました。私はふれあいの広場で綿菓子コーナーを担当しましたが、簡単にはふんわりと形良く作ることができずもっぱら機械回りの掃除やお金の受け取りが役割です。子供たち自身で綿菓子を作る体験では完成した時の満足した輝く様子を見るとみんな思わず笑顔になれました。3日間で169万人もの来場者があり市民参加のお祭りを楽しみましたが、震災でいまだ多くの人々が大変苦勞をされています。普通の生活が送られている有難さを強く感じました。これからも広島から被災地へ「希望と元気」を届け続けたいと思います。

## 第10回ひろしま「山の日」県民の集いに参加して

黒瀬 睦 (中国支部)



第9回に続き第10回ひろしま「山の日」県民の集いに参加しました。今回はメイン会場はなく広島県下9市町、10か所の会場で「山の日」県民の集いが開かれました。広島新幹線口からリムジンバスに乗り三原市会場である中央森林公園に向かう途中3月7日の「翼休みの森」植樹祭で植えた八重桜の苗木を見に行きました。池の斜面に植えた八重桜は青々と緑の葉をつけ、植樹した事務局3名の名前が記載された名札が取り付けられていました。つぎの年に花見に訪れることができますようにと記念写真を撮りました。

午前10時からのオープニングセレモニーの最後に主催者の音頭で「どんぐり」、皆で「ころころ」と大声で安全祈願しました。5班に分かれ、子どもさん連れの家族や年配者はチェーンソーで切り倒された松の木を手のこを使って枝・葉を落とし、チップパーの機械まで抱えて運びました。倒れかかった木、枯れた木などが次々と切り倒され、チップパーにかけられ、チップとなり自然の山



に戻されました。

午後、草笛の演奏や小学生を含めた「ひよっとこ踊り」などで楽しみました。雨の予報もあり心配しましたが曇天で、期待していた初夏の里山の爽やかさに少し欠けましたが気持ちの良い汗を流すことが出来ました。



## 広島平和記念公園の清掃活動について

伊東 昭一  
(東芝エレベータ中国支社)



昨年4月より広島に赴任し、早いもので半年が経過しました。平和公園の清掃活動には、私も数回参加させていただいています。世界の中で平和でのシンボルである平和公園での清掃活動は、清掃の枠を超えたもっと大きく、もっと大切なものに携わっている思いにとられながら参加させていただいています。

弊社は全国的にボランティア活動などへの参加、いわゆるCSR活動が盛んに行われています。例えば各地域における清掃活動や安全キャンペーンなど、活動内容は様々です。

東芝エレベータ(株)中国支社でも、以前より平和公園の清掃活動への積極的参加までの延べ参加人数が502人。大変多くの社員、家族が参加していることを知り嬉しく思い、また誇りに感じます。

「昇降機事業を通して社会貢献を目指す弊社は、共に地球に生きる企業市民として、国際社会に通用する企業として21世紀社会の発展に力強く貢献する」、これが我々東芝エレベータのCSRに対する考えです。

社員、家族を含めた私たち中国支社の仲間が、今後も継続してCSR活動の一環として、この平和公園の清掃活動に積極的に参加し、地域社会の発展のために、わずかでも貢献できればと心から願っております。



## パソコン教室雑感

泉尾 満久 (日本ユニシス OB)

私がこのパソコン教室にお邪魔をすることとなって、2年を過ぎ早くも3度目の忘年会を迎える時期にまでなってきました。パソコン教室は毎月2回(第1、3土曜日)実施しております。始めた頃は月2回のため、前回やったことが次回では目新しいこととなっているのではと心配した



右が筆者

ものです。最初にお伺いした頃は、EXCEL、WORDをテキストで修得されるという状況でした。日常生活の中でEXCELが使われることはなかなかないのではないかと、これを繰り返しやっていただいても面白くないのではないかと、逆の立場だったら飽きてしまうなあと、心配をしたものです。やはり楽しくパソコンが使えるようになっていただきたい、それが一番長く続けられる秘訣ではないかと考えています。年賀状の作成時期になれば年賀状作成のお手伝い、集計が必要であればEXCEL作成のお手伝いなどをもしております。

最近、私もご多分にもれずFacebookを始めました。このきっかけとなったのも、Facebookを始めたいと言われる参加者の方の一言が自分でも登録してみなければ分からない、教えてあげられないと思ったことからです。参加者の方も、このパソコン教室で新たなきっかけを作ってください楽しいパソコンライフを送っていただければ幸いです。

## ボランティアに参加

鈴木 幸子（登録活動会員）



右から二人目が筆者

一昨年ひよっこ踊りでボランティアに参加して、そこで銭太鼓と出会いました。曲に合わせてカシャ、カシャと銭太鼓の棒の音がして、見ていると気持ちが軽くなり自然に身体が動き「やってみたい」と思い早速にグループに仲間入り。皆さんボランティアで活動されていました。介護の仕事をしている私は出会った皆さんに少しでも笑顔になっていただきたい、そのためには何事も自分が楽しんでやることで皆さんに気持ちが伝わると思っています。10月18日西広島あかり苑でボランティアがあり、銭太鼓に初挑戦。見るのとやるのでは大違いで曲に合わせて棒を落とさないようにするのが精いっぱい、皆さんの顔を見る余裕はありませんでした。つぎはひよっこ踊りでの出番、これは面をつけての踊りなので何でもできます。曲が始まり皆さんに近づくと手を出してくださり一緒にリズムをとり踊ってくださる方、握手あり抱き寄せありです。面の中から見える顔は皆さんニコニコ笑顔いっぱいです。お別れの時「楽しかったよ！また来てね」の声をかけてくださいました。その声が一回でも多く聞かれるように練習に励みこれからもボランティアに参加したいと思います。

## 石内慈光園（特別老人ホーム）でのボランティア

若狭 勝典（登録活動会員）



我々は、三井V-Netの会員で組織した地域芸能活動に奉仕するグループ（スリーコインズ）です。会員15名弱で、はや結成3年を過ぎ少しは地域に貢献していると自負しておりますが、今は演目も増え銭太鼓、南京玉すだれ、腹話術、日本舞踊、手品、楽器演奏、ひよっこ踊り、安来節踊などで会員の特芸をフルに活用しております。今回の老人ホームは前回（平成20年10月）に続き2回目の訪問でした。当ホームは10余年にわたり地域介護医療サービスを提供されております。まずは訪問の挨拶で窓口担当の方が、「三井ボランティアの皆様良く訪問してくださいました」と応対されスリーコインズより三井ボランティアの方が強い印象を持たれており苦しい…今日は三井の社会貢献活動を広める絶好の場であると再認識すると同時に一生懸命各自のパートを披露することである。

定刻（13時半）にぞくぞく入所者（主にデイサービスを受ける人）の輪が広がりお年寄りの目に子どものような好奇心をかきたてる様子が伺われます。私たちが逆に元気づけられ「さあやるぞー」と軽快な銭太鼓のリズムが始まります。つぎは私の番となり一段と腹話術のセリフに力が入りました。東北の被災地や南紀の台風災害の話の中に入れて、腹話術を初めて見る方に印象づけました。またハーモニカでは童謡を合唱したりして郷愁を誘ったようです。ひよっこ踊りも面白さと奇抜な衣装で笑いを誘い職員の方も輪に入って最高に盛り上がりました。お年寄りの笑顔が励み、これからも社会貢献に頑張りたいと思います。

## 障害子どもまつり

黒瀬 睦（中国支部）



昨年10月30日（日）広島市立広島特別支援学校で「第32回障害子どもまつり」が10時から14時30分まで行われました。このおまつりは、国際児童年（1979年）の翌年から行われ今年で32回目を迎えました。

安田女子大学3年生の山尾さんを代表に学生が運営し、大学生がほとんどの約100人のボランティアが8時10分に集合し15時30分まで各コーナーでの遊びやバザー、子どもコンサートなどのお手伝いをしました。私は「みのり作業所」のコーナーで野菜（大根、ホーレン草、春菊など）、広島菜漬、二重焼きなどの販売を手伝いました。



一日中雨が降り続けましたが、たくさんの支援学校の生徒さん、ご父兄などでにぎわいました。特に子どもコンサートは学生のバンドで歌ったり踊ったりでとても楽しそうでした。

## 事務局便り

### 一事務局員の異動一

#### 退団事務局員挨拶

#### 極めて意義ある期間に深謝

本部（東京） 林 英彦（三井造船 OB）



平成18年2月事務局に入団してから6年近く経過、昨年11月末退団しました。この間、諸々の事務局を担当致しました。入団前はボランティアの経験が全くありませんでしたが、皆様のボランティア活動に真摯に熱心に取り組まれるのを見たり聞いたりまたお教えいただき「ボランティア」について学ぶことができました。さらに異業種の方々と知り合いになったり観点の違ったご意見をお聞きしたり、多くの事柄を勉強致しました。今後に役立たせて頂きます。極めて意義のある期間に深謝しております。ボランティア活動は益々必要に重要になると思われます。三井V-Netのさらなる発展を心から祈念しております。

今後は三井V-Net会員の一員として私に合った活動をさせていただければと思います。どうかよろしく願い申し上げます。ありがとうございました。

#### 中国支部退団にあたって

上村 脩三（中央三井信託 OB）

中国支部開設以来、あっという間の5年間でした。自分のこともままならない私が、人様のお世話などとてもないとの思いがありましたが、木村前事務局長からのお世話で止むなくお手伝いを始めました。マニュアル等何もなく全く見よう見まねでした。現在は、会員250名になり、支部の体裁も整ってきた感があります。今後もボランティア活動には参加していきたいと思っています。



黒瀬さん 上村さん

#### 中国支部を退団して

黒瀬 睦（三井物産 OG）

平成18年10月1日に中国支部が開設以来5年間にわたり事務局員として会員の皆様に医療・福祉・環境等のボランティア案内をし、またボランティアとして8月の広島平和記念式典での車いす介助等ボランティア、11月の広島郷土資料館での駄菓子祭りでのボランティア、そして毎月第3日曜日の広島記念公園での清掃ボランティアや森林公園での山の手入れなどに参加しました。

何も分からないままでのスタートでしたが、あっという間の5年間でした。

特に平成23年は東日本大震災、福島原発事故、台風災害など大きな災害があり、ボランティア活動が大きく報道されました。これらのことから「出来ることからやろう」と思うようになりました。今後は一会員として三井V-Netでのボランティア活動に参加させて頂こうと思っています。そして少しでも社会に目を向けることができましたことにお礼申し上げます。ありがとうございました。

#### 入団事務局員挨拶

本部（東京） 稲葉 常春（東芝 OB）



昨年11月1日付にて、三井V-Net事務局員としてお世話になることになりました。これまでは、東芝並びに東芝グループ会社にて人事・勤労関係や営業の仕事に携わってきました。

不慣れなため、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、一日も早く皆様のお役に立てるよう努力して参りたいと存じます。

どうぞ宜しくお願い申し上げます。

関西支部 前田昌巳（商船三井 OB）



現役時代に8年間欧州に駐在、現地の方々にお世話になった恩返しをしたいと思い、大学野球部の先輩で三井V-Net会員の野上悟良様のお勧めもあって、一昨年の秋から母校、神戸大学の留学生との対一交流を始めたことがご縁で昨年6月から事務局でお世話になっています。

関西支部は来年、創設10周年を迎えますが、創設以来、活動を全面的に支えて頂いている会員の皆様、歴代事務局の皆様の熱い想いを共有し、微力ですが新規会員の増強、ボランティア活動メニューの充実など、三井V-Netの更なる活性化に努めたいと思いますので、よろしくお願い致します。

## 一木会例会 2011 年の行事

三井V-Netの会員ボランティアが集う一木会例会は通常奇数月の第1木曜日に開催し、必要な議事の審議、事務局報告や部会報告のあと、講演会などを行っています。また例会後の親睦会ではボランティア同士情報交換を行い、友好を深めています。昨年(2011年)に実施した行事は次のとおりです。

### 1月6日(木)

講演「自分の特性を生かした40年のボランティア活動」



講師：高木金次氏(財団法人日本チャリティ協会理事長)

ご自身のこれまでのボランティア活動について語っていただきました。

昭和41年の日本チャリティ協会設立に参画し、事務局長に就任。以後協会を通じて各種福祉活動を展開してこられました。近年は障害者アートに力を注いでおられ、2009年にはアジア・パラアートTOKYOを開催、また2010年には第1回パラアート全国展を開催されています。

### 3月3日(木)

1. 部会報告(東大柏部会)

世話人井口宏氏から最近の活動状況などについて報告がありました。

2. DVD「成年後見制度」上映、及び成年後見制度の解説



講師：吉田導子氏(行政書士)

講師から成年後見制度についての解説があった後、DVDを上映。DVDの内容は、任意後見と法定後見に関するドラマと関連する対談でしたが、DVD上映後の質疑応答では熱心な質問が相次ぎ、皆様方の関心の高さが窺い知れました。

### 5月12日(木)

DVD「成年後見制度」(続編)上映、及び成年後見制度の解説



講師：吉田導子氏(行政書士)

3月例会に引き続いて吉田導子氏に講師をお願いし、成年後見制度の解説と会場からの質問に答えていただきました。今回上映したDVDは「住み慣れたまちで生き生き暮らす～成年後見制度と認知症～」と「親なき後～成年後見制度と知的障害～」の2本でしたが、いずれも市民後見人が活躍する内容となっていました。

### 7月7日(木)

1. 部会報告(横浜国大部会)

世話人布野剛甫氏から最近の活動状況などについて報告がありました。

2. 講演「東日本大震災で被災したミュージアムに救いの手を—文化財が危ない!」



講師：鈴木隆敏氏(慶応義塾大学大学院講師・前箱根彫刻の森美術館館長)

東日本大震災で多くのミュージアムや文化財が被災しましたが、これらを放置したままにしておけばごみとして廃棄、処分されかねないため、文化庁

では昨年4月から「被災地文化財等救援委員会」を設置し、現地における「文化財レスキュー事業」をスタートさせているようです。また、旧平山郁夫財団の「公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団」を窓口寄付金、義援金を集めているとのことでした。

### 9月1日(木)

1. 部会報告(駒澤大部会)

世話人鈴木徹夫氏から年間の活動概況について報告がありました。

2. 講演「お仲間コラボ・シニアの時代」



講師：船橋利幸氏(B&G-NEXT代表)

シニアが同じ趣味や目標を持ってうまくコラボレートするにはどのようにすればいいのかわからない、いろいろな角度からアドバイスをいただきました。お仲間コラボを目指すグループのうち約80%が頓挫しているとのこと。グループの中では自分の役割をよく理解することが大事で、リーダーシップを発揮する人ばかりではうまくいかないとか。

### 11月10日(木)

講演「超巨大地震と津波のしくみ—東日本大震災の教訓を防災にどう活かすか」



講師：小玉喜三郎氏(独立行政法人産業技術総合研究所特別顧問)

地質学(構造地質学)がご専門の小玉講師に、昨年3月の東日本大震災の発生メカニズム、全国各地の震度計データに基づく地震の時間的経過

のアニメなどを紹介いただくとともに、地震の予兆や、予知研究などについても興味深いお話を聞くことができました。

# 三井ボランティアネットワーク事業団 (三井V-Net) 皆様もボランティア活動に参加しませんか

三井ボランティアネットワーク事業団は、三井グループ各社の協力を得て、1996年に設立されました。主として三井グループ企業出身のシニア層に対してボランティア活動を紹介・仲介・斡旋するとともに、三井V-Net独自のボランティア活動を企画・立案・実行することによって、シニアの豊かで健康な生きがいを感じられるよう支援を行い、三井グループ全体の社会貢献活動に資することを目的としています。ボランティア活動会員登録に関しましては入会金および年会費等は不要です。

<b>ボランティア活動会員登録票</b>		(関東地域) 03-5570-8035	
		FAX (関西地域) 06-4396-8681	
		(中国地域) 082-222-5101	
三井ボランティアネットワーク事業団(三井V-Net) 御中			
貴事業団を通じたボランティア活動への参加を申込みます。			
記入日 20 年 月 日			
氏名	(フリガナ) -----	生年月日	19 年 月 日
		性別	[ ]男 ・ [ ]女
住所	郵便番号 -		
自宅電話番号	-	-	
自宅FAX番号	-	-	
携帯電話番号	-	-	
E-Mail Address			
出身企業			
以下の活動についてご希望される項目に○印を入れて下さい(複数可)			
希望する ボラン ティア	① [ ] 国際交流(留学生と日本語を通じての交流・文章作成の支援等)		
	② [ ] 環境保全(河川敷・海岸等の清掃、水源林地域保全活動)		
	③ [ ] 医療・福祉(病院外来の案内・図書整理等、福祉施設内の草刈・清掃等)		
	④ [ ] 文化・教育(文化施設での手伝い、発展途上国の教育費支援)		
会員登録の動機について該当項目に○印を入れて下さい(複数可)			
[ ] 出身企業の紹介		[ ] ホームページを見て	
[ ] 知人の紹介		[ ] ニュースレターを見て	
		[ ] その他( )	

上記入手の個人情報は、個人情報保護法の方針に従って厳重に管理し、ボランティア活動に必要な範囲内に限り使用させていただきます。

## 三井ボランティアネットワーク事業団

本部(東京) 〒107-0052 東京都港区赤坂3-11-3 赤坂中川ビル3階  
TEL:03-5570-2181 FAX:03-5570-8035

関西支部(大阪) 〒556-0011 大阪市浪速区難波中1-12-5 難波室町ビル4階  
TEL:06-4396-8680 FAX:06-4396-8681

中国支部(広島) 〒730-0017 広島市中区鉄砲町6-7 植本ビル5階  
TEL:082-222-5101 FAX:082-222-5101

ホームページアドレス <http://www.mv-net.com/>